

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00202

研究課題名（和文）礼拝像・祭具制作における素材選択の心性史：材質とその聖性の喧伝に関する調査・研究

研究課題名（英文）The psychohistory of material selection in the production of worship statues and ritual objects; Research and studies on materials and the clamour for their sanctity.

研究代表者

児島 大輔 (KOJIMA, Daisuke)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員

研究者番号：50582376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、仏像や法具のような礼拝像と祭具の材質に注目し、素材の選択とその聖性とのかわり追求することを目的として、実作例と文献資料とを対象とした調査・研究をおこなった。その結果、とりわけ、木彫仏像と銀製仏像についての考察を深めることで、その素材選択と聖性の獲得との関係性を叙述することができた。また、こうした本研究で得られた成果を論文や展覧会で広く公表できたほか、研究史を踏まえて今後の展望をまとめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の仏像史においては主流を占める木彫仏像の素材選択の歴史とその聖性の獲得、現存作例は少ないものの文献資料上では散見される銀製仏像の素材選択と素材転用の歴史について、それぞれ一定の見解を示して論じることができた。こうした成果は論文として発表したほか、所属する研究機関（大阪市立美術館・東京国立博物館）において開催した展覧会でも公表することができ、多くの来館者をはじめとする社会に広く還元することができた。

研究成果の概要（英文）：This study focused on the materials used for statues of worship and ritual objects, such as Buddhist statues and Dharma objects. The research was conducted on examples of actual works and literature with the aim of pursuing the relationship between the choice of materials and their sanctity. As a result, a deeper consideration of the wooden and silver Buddhist statues enabled a narrative of the relationship between the choice of material and the acquisition of holiness. In addition, the results of such research could be widely publicised in articles and exhibitions, and future prospects could be summarised in the light of the research history.

研究分野：仏教美術

キーワード：仏像 木彫像 銀仏 文化史 転用 追善 供養

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

仏教美術研究、ことに仏像等を対象とする彫刻史の分野においては、その素材に対する学際的な調査研究の進展が目覚ましく、とりわけ木彫像に対する樹種識別調査や年輪年代調査によって木彫像の見方や年代観の変更が迫られてきた経緯がある(例えば、金子啓明ほか「日本古代における木彫像の樹種と用材観 七・八世紀を中心に」『MUSEUM』555、1998年。光谷拓実「年輪年代法と文化財」『日本の美術』421、2001年など)。一方、歴史学や国文学の分野においては長谷寺縁起などを題材として由緒のある御衣木(みそぎ)すなわち仏像用材が語られてきた過程に関する研究が蓄積されている(例えば、瀬田勝哉『木の語る中世』朝日選書、2000年。横田隆志「長谷観音の御衣木と説話」『南都仏教』88、2006年など)。ところが、こうした自然科学を援用した研究成果と人文科学分野の研究成果との接点は希薄で、その融合と総合化が今後の課題として残されている。

2. 研究の目的

本研究は、仏像や神像などの礼拝対象となる聖像と仏具や中国青銅器などの供養具や祭祀具、さらには銅鏡のように礼拝対象と供養具の両者の性格を兼ね備えた工芸品等の制作に際し、どのような素材をなぜ選択したのかを探るとともに、その素材自体に聖性を認める場合には、どのような過程で素材に聖性を見出したのか、そしていかなる方法でその聖性を喧伝してきたのかを明らかにすることを目的としている。

本研究の課題は、まず仏像や仏具、祖先崇拜のための祭祀具などは何を素材とするのか、なぜその素材を選択したのかを明らかにすることにある。その上で、その素材自体に聖性や霊性を見出しているとすれば、その理由を明らかにし、どのようにしてその素材について喧伝してきたかを明らかにしたい。本研究における核心となる「問い」は以下の3点である。

What? 何を素材として選んだのか?

Why? なぜその素材を選んだのか?

How? その素材についてどのように語ってきたのか?

日本の仏像・仏具や祭祀具はその多くが中国の影響を色濃く受けて制作されてきた。しかし、日本列島内で制作されたそれらが中国と同様の用材観で制作されたのかどうか、これまでの先行研究では明らかにしていない。そこで、本研究では仏像や神像などの礼拝対象となる聖像、仏具や青銅器などの供養具・祭具、そして銅鏡のように両者の性格を兼ね備える工芸品の制作において、素材の選択がどのような理由でおこなわれたのか、その必然性や素材に対する聖性を見出し方の史的展開およびその素材の聖性についていかなる言説がなされたのかについて追求することを目的とする。

本研究では特別視された木材や金属の積極的な選択と、様々な制約の中でおこなわれた素材の受動的選択、すなわちほかに選択肢がない状況下での素材選択とを選別し、特殊な用材とその聖性についての関係を考察するとともに、それらの用材や聖性がどのように喧伝されてきたのかを検証することを目的とする。具体的には仏像や仏具、鏡や青銅器のような祭祀具に用いられた特殊な素材、あるいは特殊であると喧伝されてきた素材について、資料の集成をおこなうとともに、現存作例の場合には実見調査をおこなう。対象となるのは木材や金・銀・銅等の金属を用材とする仏像と、同様の仏具等に加えて銅鏡等の青銅器などの金属工芸が中心となる。

例えば、由緒ある木材を用材とした仏像や、そうした仏像と同じ木材を御衣木として造られた仏像、貴顕が生前愛用した食器等の金属器を鋳つぶして造られたと伝わる仏像や仏具などが調査対象であり、その素材に関する喧伝のされ方が検証の対象である。奈良・長谷寺の本尊十一面観音菩薩像は滋賀・三尾里から流れ出たクスノキの霊木を用材として造像されたと伝え、再三にわたる罹災後の復興に際しても近隣から雷に打たれた霹靂(へきれき)木などの霊木をことさらに選んで仏像用材としたことが史料より知られ、さらには長谷寺の観音像と同材を用いたと伝わる仏像が点在する。ところが、長谷寺像や同材と伝わる仏像の用材についての調査・研究はこれまでに進んでいないため、どのような経緯で伝承が生成され喧伝されたのかを実作例の調査を通して探りたい。

3. 研究の方法

本研究課題の期間内に、銘記や縁起、史料などの文字資料に依拠して特別な素材を能動的に選択した仏像や仏具・祭祀具のできる限りの例を集成する。このうち、日本古代の銀仏の造像例についてはすでに史料集成をほぼ終えており、さらなる追加を目指したい。現存作例については実見調査をおこなうほか、樹種同定調査や年輪年代調査、銅鏡等の成分分析調査など既往の調査成果があればそれらの集成をおこない、これらを取りまとめることで人々が礼拝像や供養具の素材として何を求め、どう語ってきたのか、その心性の歴史を明らかにする。

日本の仏教美術における素材選択の歴史を考えるうえで中国の事例の検証は欠かせない過程である。ところが、中国の木彫像は日本に比して現存作例が圧倒的に少なく、伝来過程が明らか

になる例や伝承を伴う例も乏しいため、比較対象としては不足の感がある。しかしながら、中国を代表する手工芸品のひとつである銅鏡に目を向けると、現存作例は多数にのぼり銘記を伴う例も多い。たとえば、大阪市立美術館所蔵の《青銅「漢有名銅」銘獸帯文鏡》は前漢時代末期頃(紀元前1世紀)の制作と考えられ、銘のうちの「漢有名同(=銅)出丹陽以之為竟(=鏡)」は同時期の鏡の銘としては典型的に頻出するものだが、丹陽すなわち現在の中国江蘇省南京付近産出の銅を用いたことを高らかに宣言している。本鏡の出土地は不詳ながら、銘文の字形や緑青(銅鏽)の状態は中国南方域での制作と出土をうかがわせ、銘の内容とも齟齬しない。このように素材の由来を知ることのできる銅鏡等青銅器の調査によって中国仏教美術における作例研究の欠を補い、日本の仏教美術制作における素材選択との比較対象に供したい。

4. 研究成果

本研究によって得られた成果は次のような論文として結実している。まず、現存作例の少ない銀製仏像に関して史料的な考察をおこなった「白銀の転生 銀仏の造像と銀器の転用」(栄原永遠男・佐藤 信・吉川真司編『東大寺の新研究3 東大寺の思想と文化』、法蔵館、2018年)を發表し、古代・中世の銀仏が女性に関わるものが多いこと、それらが個人の生前に愛用していた銀器等を転用した例が散見されることなどを論じた。なお、同論文は2019年に早稲田大学美術史学会より第30回同学会賞(小杉賞)を受けた。

また、木彫仏像の素材に注目した論考「御衣木の由来 史料から見た木彫仏像用材の意識的選択」(肥田路美編『古代寺院の芸術世界』《鈴木靖民監修「古代文学と隣接諸学」6》、竹林舎、2019年)では、実作例と史料を考察の対象として、木彫仏像が樹木から仏像用材・御衣木(みそぎ)となり、さらに仏像となって重層的な祈りがささげられてきたことを明らかにした。なお、同論文は2017年に研究代表者らが開催した特別展「木×仏像」(於大阪市立美術館)で得られた成果を発展的に継承したものである。

さらに、「仏教美術史から宗教遺産学へ 研究史から見た課題と展望」(木俣元一・近本謙介編『宗教遺産テキスト学の創成』、勉誠出版、2022年)は以下の諸点について研究史をまとめ今後の課題について問題提起したもので、仏教美術における音、古代憧憬と描かれた歴史の音、木彫仏像の用材、御衣木と御衣絹、研究資料としての修理報告書と展覧会図録、銀仏と追善のかたち、の6章にわたって素材に注目した研究を中心に既往の研究史を取りまとめ、今後の展望を示すことができた。

本研究で得られた成果は研究代表者が開催に関わった展覧会に盛り込むことで、社会に還元することができた。2018年度「鉄：クロガネの美」、2019年度「よそおいをうつす」「莊嚴供奉」、2020年度「愉快奇怪 神獸図鑑 中国古代篇」「ニッポンのかがやき」「桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相」「秀麗精緻 明清時代の工芸」といった大阪市立美術館において担当したコレクション展(平常展)では、研究成果をわかりやすく理解できるよう素材に注目した解説等をおこなった。また、2020年度に大阪市立美術館と朝日新聞社との協働で大阪市立美術館において開催した特別展「天平礼賛」、あるいは研究代表者の所属機関異動後、2023年度に東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、中尊寺と協働で東京国立博物館において開催した建立900年特別展「中尊寺金色堂」等においても本研究課題の成果を社会に還元することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1. 著者名 児島大輔 | 4. 巻 21 |
| 2. 論文標題 展覧会報告 特別展「天平礼賛 高遠なる理想の美」 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『大阪市立美術館紀要』 | 6. 最初と最後の頁 pp.42-49 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1. 著者名 児島大輔 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 館蔵《鉄 天命「極楽律寺」銘尾垂釜》の銘文について | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 大阪市立美術館紀要 | 6. 最初と最後の頁 pp.34-37 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1. 著者名 児島大輔 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 大阪市立美術館の設計思想 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 大阪市立美術館紀要 | 6. 最初と最後の頁 pp.28-33 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件／うち国際学会 0件）

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 児島大輔 |
| 2. 発表標題 樹に祈り木を彫る 木彫仏像の文化誌 |
| 3. 学会等名 「西村公朝 芸術家の素顔」展 講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 児島大輔 |
| 2. 発表標題 「素材を読み解く、素材から読み解く 美術史研究における調査手法の諸相」 |
| 3. 学会等名 第65回夏季講座「金属工芸 技術復元とその裏側」（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 児島大輔 |
| 2. 発表標題 「復元学と美術史 復元における美術史・美術史における復元」 |
| 3. 学会等名 『文化遺産と 復元学』刊行記念シンポジウム「復元学の意義と課題」日本建築史研究会・日本建築学会日本建築史小委員会研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 児島大輔 |
| 2. 発表標題 「ニッポンのかがやき 金属工芸の歴史」 |
| 3. 学会等名 OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK&THINK |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 児島大輔 |
| 2. 発表標題 「天平仏と正倉院宝物 その礼賛の歴史」 |
| 3. 学会等名 特別展「天平礼賛 高遠なる理想の美」講演会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計10件

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔・猪熊兼樹・清水健 | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 NHK・NHKプロモーション | 5. 総ページ数 178 |
| 3. 書名 『建立900年 特別展 中尊寺金色堂』図録 | |

| | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 吉川聡・児島大輔ほか | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 奈良文化財研究所 | 5. 総ページ数 134 |
| 3. 書名 吉川聡 編 『元奈良町惣年寄清水家資料調査報告書』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 増田政史・丸山士郎・児島大輔 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 日本経済新聞社・テレビ東京・BSテレビ東京 | 5. 総ページ数 76 |
| 3. 書名 東京国立博物館・日本経済新聞社編 『浄瑠璃寺躯体阿弥陀修理完成記念 特別展 京都・南山城の仏像』図録 | |

| | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔ほか | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 698 |
| 3. 書名 木俣元一・近本謙介編 『宗教遺産テキスト学の創成』 | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔ほか | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 | 5. 総ページ数 212 |
| 3. 書名 奈良文化財研究所編『探検！ 奈文研』 | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔ほか | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 大阪市立美術館・朝日新聞社 | 5. 総ページ数 220 |
| 3. 書名 児島大輔・菊地泰子編著『天平礼賛』 | |

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔ほか | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 吉川弘文館 | 5. 総ページ数 332 |
| 3. 書名 海野聡編『文化遺産と 復元学 』 | |

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔ほか | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 竹林舎 | 5. 総ページ数 584 |
| 3. 書名 肥田路美編『古代寺院の芸術世界』 | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔 ほか | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 埼玉県松伏町 | 5. 総ページ数 366 |
| 3. 書名 『松伏町史 文化財編 仏像』 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 児島大輔 ほか | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 法蔵館 | 5. 総ページ数 632 |
| 3. 書名 宋原永遠男・佐藤 信・吉川真司編『東大寺の思想と文化（東大寺の新研究3）』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究で得られた成果は研究代表者が開催に関わった展覧会に盛り込むことで、社会に広く還元することができた。2018年度「鉄：クロガネの美」、2019年度「よそおいをうつす」「荘厳供奉」、2020年度「愉快奇怪 神獣図鑑 中国古代篇」「ニッポンのかがやき」、「桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相」「秀麗精緻 明清時代の工芸」といった大阪市立美術館において担当したコレクション展（平常展）では、研究成果をわかりやすく理解できるよう素材に注目した解説等をおこなった。また、2020年度に大阪市立美術館と朝日新聞社との協働で大阪市立美術館において開催した特別展「天平礼賛」、あるいは研究代表者の所属機関異動後、2023年度に東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、中尊寺と協働で東京国立博物館において開催した建立900年 特別展「中尊寺金色堂」等においても本研究課題の成果を社会に還元することができた。

| 6. 研究組織 | | |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
| | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |